国立市コミュニティワゴン試行運行 平成 27 年度の評価について

国立市コミュニティワゴンは、平成 26 年 4 月 16 日から最長 3 年間の予定で試行運行を実施しているが、平成 26 年度第 2 回国立市地域公共交通会議で評価基準（目標値）を定め、毎年度の評価を行うこととしている。

平成 27 年 4 月の試行運行開始から 12 月末までのデータをもとに平成 28 年 3 月までの数字を推計し、以下の通り平成 27 年度の評価とする。

■ 1　利用者数

平成 27 年 4 月から 12 月末までの各ルートの月別利用者数と 1 日当たりの利用者数、およびそれをもとにした平成 27 年度の見込みは以下の通りである。

平成 27 年度国立市コミュニティワゴン試行運行「くにっこミニ」利用状況（単位：人）							
		青柳ルート		泉ルート		矢川・東ルート	
	運行日数	利用者数	一日平均	利用者数	一日平均	利用者数	一日平均
4 月	26	1,029	39.6	533	20.5	604	23.2
5 月	26	979	37.7	471	18.1	437	16.8
6 月	26	1,072	41.2	555	21.3	622	23.9
7 月	27	1,140	42.2	663	24.6	709	26.3
8 月	26	967	37.2	651	25.0	528	20.3
9 月	26	1027	39.5	583	22.4	687	26.4
10 月	27	1057	39.1	543	20.1	579	21.4
11 月	24	999	41.6	563	23.5	624	26.0
12 月	26	974	37.5	486	18.7	546	21.0
年間予測		**12,325**	**39.8**	**6,731**	**21.9**	**7,115**	**23.0**

■２　経費

（１）全体の経費（H27 年４月~H28 年３月分の１年間の**見込み**）

	収入	支出
運賃収入	3,259,280	
人件費		22,641,748
燃料油脂費		2,877,372
車両リース料		3,744,000
自動車重量税		39,000
車両修理点検費		492,000
保険料		708,660
停留所移設		213,235
停留所新設		585,878
支出合計		31,301,893
損　　益		**−28,042,613**

（２）ルートごとの状況（H26 年４月~H27 年３月分の１年間の見込み）

	輸送人員	１日当たり	営業収入	経費合計	（経費内訳）			収支率	営業係数
					燃料費	人件費	その他		
	（人）	（人）	（円）	（円）	（円）	（円）	（円）	（%）	
青柳	12,325	39.8	1,502,130	9,838,307	987,114	7,189,973	1,661,220	15.3	655
泉	6,731	21.9	873,910	10,608,413	953,837	7,993,356	1,661,220	8.2	1214
矢川・東	7,115	23.0	883,240	10,056,060	936,421	7,458,419	1,661,220	8.8	1139
計	26,171		3,259,280	30,502,780	2,877,372	22,641,748	4,983,660		

■３　現況評価

（１）青柳ルート～評価＝C

平成 27 年度の１日当たりの利用者数 39.3 人、収支率 15.3%であったと見込まれることから、青柳ルートの評価は依然として C で「抜本的な見直しが必要」であるが、1 日当たりの利用者数が 40 人を上回る月があることや、2 月 1 日以降の増便（終日 30 分）後の利用状況などもふまえながら引き続き状況改善を図っていく必要がある。また 100 円運賃利用者の割合が 7 割に上ることから高齢者・しょうがいしゃの交通手段として使われていること、また回数券利用者数が現金利用者数を上回っていることから地域の足として根付きつつあることも見て取れる。一日あたりの利用者 50 人、収支率 20%を超えれば試行運行の継続も可能であることから、更なる利用向上方策なども検討する。

（２）泉ルート～評価＝C

平成 27 年度の 1 日当たりの利用者数 21.9 人、収支率 8.2%と見込まれることから、泉ルートの評価は依然として C で「抜本的な見直しが必要」である。泉地区は立川バス、京王バスの路線があり、シルバーパスや定期券が利用でき、矢川駅や国立駅、中河原駅に一本で出られることを考えると、路線バスの利用向上策の検討を進める必要がある。

また、経費の削減を考えつつ、高齢者の生活を支える必要最小限の交通手段のありかたなども考えていく必要がある。

（３）矢川・東ルート～評価＝C

平成 27 年度の 1 日当たりの利用者数 23.0 人、収支率 8.8%と見込まれることから、矢川・東ルートの評価は C で「抜本的な見直しが必要」である。平成 27 年 9 月の見直しにより谷保駅北停留所を設けるなどの改善策を講じたところであるが、効果が現れるにはもうしばらく時間が必要と考えられ、引き続き動向を注視する必要がある。

■（参考）評価基準（目標値）について

（１）評価基準（目標値）~平成 26 年度第 2 回地域公共交通会議合意事項

・評価は、A,B,C の三段階とする。

・Ａ：本格運行へ移行

・Ｂ：さらなる試行運行の継続…ルートは概ね固定とするが、ダイヤ等については随時改善を重ね、利用向上を図るための試行運行を継続する。

・C：抜本的な見直し…現在の試行運行のルート、ダイヤの抜本的見直し、また、コミュニティワゴン以外の方法への移行も含むものとする。

評価基準（目標値）（ルートごと）

	A	B	C
1 日あたり利用者数	70 人以上	50～70 人	50 人未満
財政投入額(年間)	550 万円以下	550~900 万円	900 万円以上
収支率	30%以上 （営業係数 330 以下）	20%以上 （営業係数 500 以下）	20%以下 （営業係数 500 超）

※A,B については原則として全ての評価項目で目標値を満たすものとするが、状況に応じた判断を行うこととする。

留意点：・国立市コミュニティバス「くにっこ」青柳・泉ルートとの比較をあわせておこなう。

・高齢者、しょうがい者等の外出に寄与しているかについても考慮する。

・財政投入額についてはコミュニティバス事業全体での収支全体で考える。